

しんぎょう

真楽寺報

浄土真宗本願寺派（西本願寺）

令和四年五月

久遠劫よりこの世まで

あはれみましますしるしには

仏智不思議につけしめて

善悪浄穢もなかりけり

（親鸞聖人『正像末和讃』）

「ゆうべどこにいたの？」

「そんな昔のことは憶えてないね」

「今夜会ってくれる？」

「そんな先のことはわからない」

一九四二年に公開された映画「カサブランカ」で、ハンフリー

・ボガード（愛称ボギー）が女

性につれなくしている場面の会

話です。沢田研二が「カサブラ

ンカ・ダンディー」という歌で

「ボギー、ボギー」と歌った人

です。（この曲もいまでは受け

入れがたいD.V.が歌われていま

すが）映画のシーン、且つボギ

ーだから様になります、私な

どが「憶えてないね」とか「わ

からない」などとクールを気取

っても、それこそ冷えた空気が

流れます。時にはひどく皆さん

の機嫌を損ねたりしそうです。

実のところ、私は気取りでは

なく夕べのことどころか、さつ

きしたこと、言ったこと、考え

たことを、いとも簡単に忘れて

います。昔はそうではなかった

はず、とは自分の思い込みで、

賢いつもり振る舞いとは裏腹

の、どうでもいいことをいつま

でも憶えていて、大事なことを

さつさと忘れさつてきたよう

です。たとえば、なにかを成功

させた時、沢山の人の力に支え

られていることは思わずに、自

分の手柄ばかりを自慢する私

でしょうか。なにかトラブルが

あれば自分のことは棚に上げ、

ひとの失敗をあげつらうこんな

姿を邪見橋慢というのでし

ょう。この根性がなくなつた

わけではありませんが、自分

に都合のいいこの「記憶力」

も次第に衰えていくもので、

それがトラブルのたねにさ

えなっているようです。

さて、昔のことは憶えていな

くても、明日を知らなくても、

「いま」を生きている私がい

ま。過去を忘れ未来を知らない

私は、自身の命の成り立ちを知

りません。この姿、この顔、こ

の声、全て私ですが、どこをと

っても私の選んだものでも決

めたものでも造つたものでも

ありません。私のいのちと言

いながら、この由来を知らない

まま生きていくのです。

ただ、いのちの成り立ちを知

り通すことはできませんが、

例えば、あの方がいらつし

ゃらなかつたら、私は存在し

ないだろう、とか、あの出来

事が無かつたらここにはい

ないだろうとか、思い当たる

ものが沢山あります。それを

たどつていけば始まりのない

過去へとさかのぼっていくの

です。また、いま私がしてい

ることもたらす事柄や、話し

ていることが人に与える影

響等を思う時、遙かな未来

に続くいのちのはたらきを

想像することが出来ます。「い

ま」は過去・未来・現在のは

たらきの中に存在している

ということになるようです。

久遠実成阿弥陀仏。親鸞聖人

は阿弥陀如来を久遠の仏さま

と表現されました。始まり

のない永遠の過去から、終わり

のない未来へ続く真如そのもの

の仏さまが、真実に背く生き

様をして、形を表し、名を

示して現れて下さつた如来

様、それが阿弥陀如来です。

私のいのちの全てを包み込み

私に導くことを知り尽くし、

真実に導くはたらきを

示して下さいませ

す。

この阿弥陀如来の特に慈悲

の姿で表されたのが観音菩薩

です。この菩薩の示現と敬

われた聖徳太子は、十七

条憲法に「篤く三宝を敬

う」と仏法に帰依することを

述べられ、「われかならず

聖なるにあらざ、かれかな

らず愚かなるにあらざ。と

ともに凡夫（ただひと）な

らなくのみ」とも記されまし

た。私たちは縁によつてど

んな姿にもなり得る凡夫

です。だからこそ、如来様

のはたらきを身にまとうこ

とを勧められるのです。真

実なるものに出遇えば、

生きる姿が変わっていき

ます。

思い通りにはならない人

生に悲喜苦楽を重ねる私に

、阿弥陀如来のはたらきを

伝え、善悪浄穢に関わり

なく等しく救う慈悲を示

して下さつた聖徳太子を

讃嘆される御和讃です。